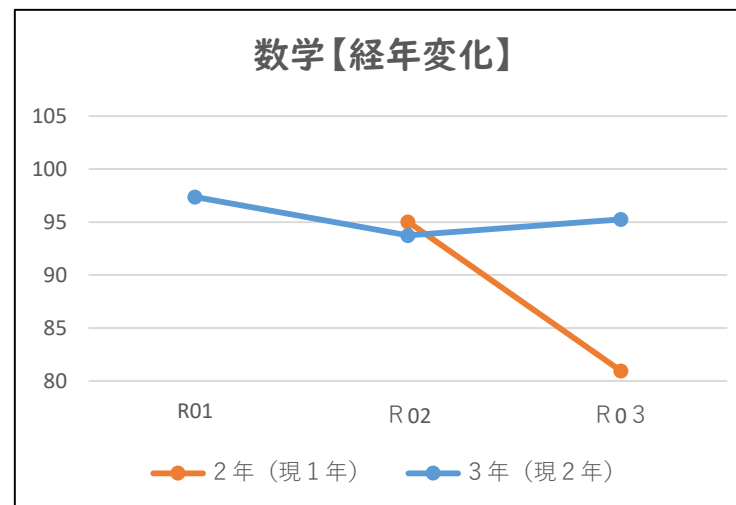
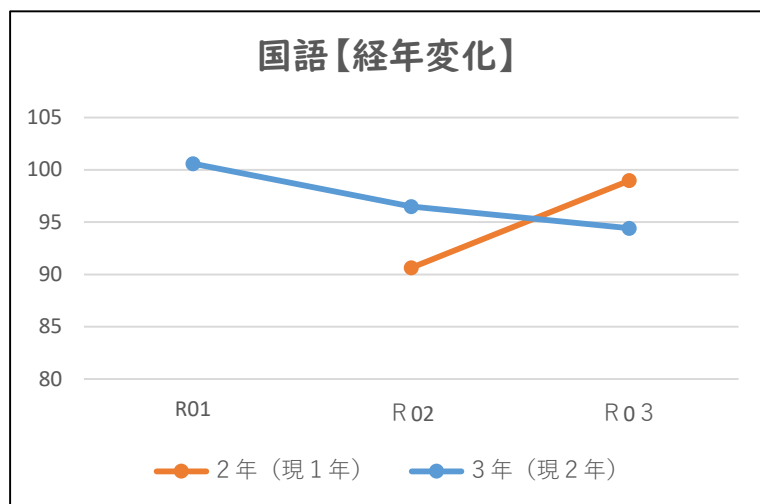


I 令和3年度末までの学力の状況把握(令和3年度 釧路市標準学力検査より)

1, 各学年の経年変化(目標値を100としたときの、各学年の状況)



※釧路市標準学力検査結果の経年変化や到達度の割合から見られる各学年の特徴・成果・課題等

○2年生の国語では、目標値を100としたときの到達度の割合が、目標値と同程度であった。領域別では、情報の扱い方に関する事項に課題が見られた。また、書くことについては目標値より高いが、読むことについては目標値よりやや低く、課題が残った。

○2年生の数学では、目標値を100としたときの到達度の割合が、目標値より低く課題があるといえる。領域別では、図形に関する事項で目標値より低く、大きな課題が残った。また、文字式の正答率も目標値より低く、大きな課題が残った。

○3年生の国語では、目標値を100としたときの到達度の割合が、目標値と同程度であった。領域別では、我が国の言語文化に関する事項に課題が見られた。また、文章を書くことについても課題が残った。

○3年生の数学では、目標値を100としたときの到達度の割合が、目標値と同程度であった。領域別では、図形に関する事項で目標値より低く、大きな課題が残った。また、「式の計算」の正答率も目標値より低く、課題が残った。

Ⅱ 各学年における成果と課題、令和4年度の取組

(○:成果 △:課題 ◇:継続する取組 □:新規の取組 ◎:改善する取組)

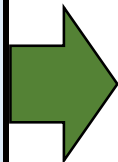
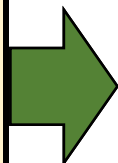
		成果と課題について	今後の取組について
1年生	国語	□1年生の国語では、小学校において学習したことを生かして、文章の骨子の理解や話し合い活動から自他の考え方を練り上げていく点に重点を置く。	
	数学	□1年生の数学では、算数で学習した内容をもとにして、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に身につくように1時間ごとの授業での習得に重点を置く。	
2年生	国語	○文章を書くことについては全国水準を超えることができた。 △情報の取り扱い方や、読解力については特に市町村平均を大きく下回っている。図表から情報を読み取り力や文章全体の内容の把握に課題があるといえる。	◇読解力を育てるために、語彙力の向上が必須と考え難解語句の確認や作文指導での辞書引きなどを意識して取り組む。 ◎資料からの読取りなど分析力や読取り方についての練習を授業で更に取り組む。
	数学	○「文字式」の内容では、校内平均正答率が市町村平均正答率と同程度であった。他の内容と比較すると取れている。これは、繰り返し計算練習をした成果である。 △「平面図形」の内容では、校内平均正答率が全国平均正答率より大きく下回っている。これは、基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある。	◇放課後学習や家庭学習を活用して、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図っていく。 ◇問題解決の授業を日常的に行い、思考力・判断力・表現力等の育成を目指して授業改善を進めていく。 □基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、家庭学習において繰り返し問題を解かせるとともに、朝学習を活用して定着を図っていく。 ◎学習内容の定着を図るために、練習問題を解く時間を今後より一層確保していく。
3年生	国語	○問題の内容正答率で、漢字を書く項目が目標値を上回った。 ○問題の内容正答率で漢字を読む項目が目標値を上回った。 ○伝統的言語文化の項目で領域別正答率が目標値と同等であった。 △目標値に対して「話すこと聞くこと」「読むこと」の領域と文法に特に低い結果が見られるのは、読解力に課題があると考えられる。	◇基本的な漢字学習の継続を図ってゆく。 □根拠を明確にした話し合い活動や根拠を味覚にした文章指導の機会の充実を図る。 ◇文章の要約などを通して、話すことの核となる事項を見据えた発言や文書が書けるよう指導を図りたい。
	数学	○「連立方程式」の内容では、校内平均正答率が全国平均正答率よりやや高かった。これは、繰り返し計算練習をした成果である。 △「図形の性質」の内容では、校内平均正答率が全国平均正答率より下回っている。これは、基礎的・基本的な図形の知識・技能の習得に課題がある。	◇放課後学習や家庭学習を活用して、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図っていく。 ◇問題解決の授業を日常的に行い、思考力・判断力・表現力等の育成を目指して授業改善を進めていく。 □基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、家庭学習において繰り返し問題を解かせるとともに、朝学習を活用して定着を図っていく。 ◎学習内容の定着を図るために、練習問題を解く時間を今後より一層確保していく。

Ⅲ 学校全体における成果と課題、今後の取り組みについて

① 成果と課題について

(授業づくり・環境づくり・習慣づくり) ○:成果 △:課題

授業 づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別少人数指導を効果的に実施し、個に応じた指導を充実させることができた。 ○加配教員を活用して、生徒一人一人の状況に合わせて対応することで基礎的・基本的な学習内容の定着につなげることができた。 ○今年度の研修では「生徒の考えの比較」を取り入れた授業づくりを目指して、主に対話的な学びの充実を図り、校内研修や公開授業研究会などを通して授業改善を進めることができた。 △生徒の活動時間が少なく、教師の説明が授業の大半を占める授業が行われていることが大きな課題である。
環境 づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○学習規律の重点化を図り、各教科で統一して指導することで、落ち着いた雰囲気の中で授業をすることができた。 ○各種調査の結果を分析し、成果と課題を全体で交流することで、授業改善の方向性を明確にすることができた。 ○放課後に学習室を開放し、朝学習で使用しているプリントや各教科で出された宿題などを中心に組みこませる体制をつくった。 △部活動や生徒会活動との兼ね合いを考えながら放課後学習を運用しているが、利用する生徒が限定的になっている。
習慣 づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習と放課後学習の取組で基礎基本の定着には一定の効果が認められた。 △家庭学習への取組に個人差が出ており、学力差にもつながっている。



② 改善の方向性について

(◇:継続する取組, □:新規の取組, ◎改善する取組 等)

<ul style="list-style-type: none"> ◇昨年度に引き続き、習熟度別少人数指導(数学・英語)やTTなどの授業方法を工夫して生徒一人一人の状況に応じた指導を継続していく。 ◇昨年度に引き続き、すべての授業において、本時の目標(ねらい)を明確にし「まとめ・振り返り」や「練習」の時間を確保することで、学習内容の習得を図っていく。 ◇校内研修においては、昨年度に引き続き「生徒の考えの比較」を取り入れた授業づくりを行い、主に対話的な学びの充実を図れるように授業交流や授業検討会を行っていく。 ◎学習課題に対する生徒の考えを基にして課題解決に導いていく授業を日常的に行っていくために、校内研修の充実を図っていく。
<ul style="list-style-type: none"> ◇GIGAスクール構想で生徒1人に1台パソコンが割り当てられるので、全ての学習において、ICTの効果的な活用ができるよう、教務部と学力向上推進部が連携して、実践事例などを紹介していく。 ◇学習内容の確実な定着を目指して朝学習と放課後学習を連動させて定着の状況を見取っていく。 ◎補足的な学習を必要としている生徒に声をかけて、教科として放課後学習の利用を促していく。
<ul style="list-style-type: none"> ◇朝学習で取り組ませている「基礎基本定着プリント」を繰り返し取り組み、その定着状況を定期的に見取っていく。 ◇朝学習で定着状況がよくない生徒については、放課後学習に参加させきめ細かい指導で学習内容の定着を図る。 ◎家庭学習については、学習課題や宿題の内容を工夫して生徒の学習意欲を高めながら、家庭学習の充実と習慣化を図っていく。 ◎毎日決められた時間に家庭学習に取り組めるように、家庭と連携しながら習慣化を図っていく。